

総務委員会資料

◎報告事項

○国立大学法人島根大学の新学部申請について

(政策企画監室) P 1

○島根県政世論調査の結果について

(広聴広報課) P 3

令和4年1月13日

政策企画局

国立大学法人島根大学の新学部申請について

1. これまでの国等の流れ

令和2年

7月 「経済財政運営と改革の基本方針2020」、「まち・ひと・しごと創生基本方針2020」に、魅力的な地方大学の実現のための一つの方策として定員増が盛り込まれる。

9月 内閣官房に「地方創生に資する魅力ある地方大学の実現に向けた検討会議」を設置

※ 定員増も含め、地方創生の観点から地方国立大学が目指すべき方向性と国における対応について検討

12月 検討会議（7回開催）における議論を取りまとめ

※ 18歳人口の減少傾向を踏まえると、地方国立大学における定員増は極めて限定的な場合に限られるべき。

令和3年

8月 2大学が申請（学部の新設等を伴わないもの）

→ 上記検討会議の意見も踏まえ、文部科学省が不採択の判断

2. 島根大学新学部の構想

(1) 名称等

マテリアル創成工学部（仮称） 1学科 定員100名程度

(2) 設置経緯、目的

- ・ SDGs やカーボンニュートラルの達成を通じて、持続可能型社会への構築に貢献することは大学の担う大きなミッション
- ・ 従来から県内経済界・産業界から工学系分野の拡充を求める意見もあったことから、このミッションの実現に併せ、金属分野のみならず、材料科学分野から貢献できる工学系新学部の設置を構想
- ・ 地方大学・地域産業創生交付金事業「先端金属素材グローバル拠点の創出－Next Generation TATARA Project－」をさらに発展させ、高度エンジニアの育成、輩出により島根県の産業振興に貢献することを目指す。

(3) 学部の内容・特色

- ・ AI や計算シミュレーションなどのデータ処理技術を活用した新材料開発の推進及びこれに資するデータサイエンス教育の強化
- ・ 実践教育の強化として、長期インターンシップや長期海外留学、研修を強化

(4) その他

- ・ 仮に定員増が認められない場合でも、規模縮小のうえ新学部設置を検討

3. 県の関与

現在、新学部の申請に向け、県内における人材ニーズの把握や分析、産業・教育界等との協力関係構築へ向け支援を実施中

4. 今後のスケジュール

令和3年12月	定員増の公募開始
令和4年4月	申請書提出締切
4月～5月	審査会における審査（ヒアリングを含む）
6月	対象大学の選定
令和5年4月	新学部への新入生受け入れ（予定）

令和3年度島根県政世論調査について

島根県政世論調査は、県民の意識を把握し今後の県政推進のための基礎資料とするため、昭和47年度から実施している。

1 調査のあらまし

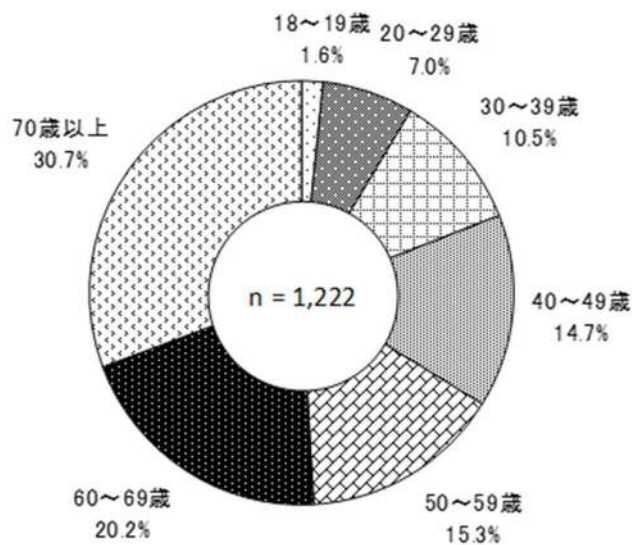
(1) 調査設計

- ① 調査地域：島根県全域
- ② 調査対象：県内在住の満18歳以上の男女
- ③ 標本数：2,000人
- ④ 抽出方法：層化無作為抽出法
- ⑤ 調査方法：郵送法
- ⑥ 調査時期：令和3年8月

(2) 回収結果

回収数(率)：1,259(63.0%)

回答者年齢構成(年齢について無回答を除いた集計)



2 主な調査結果

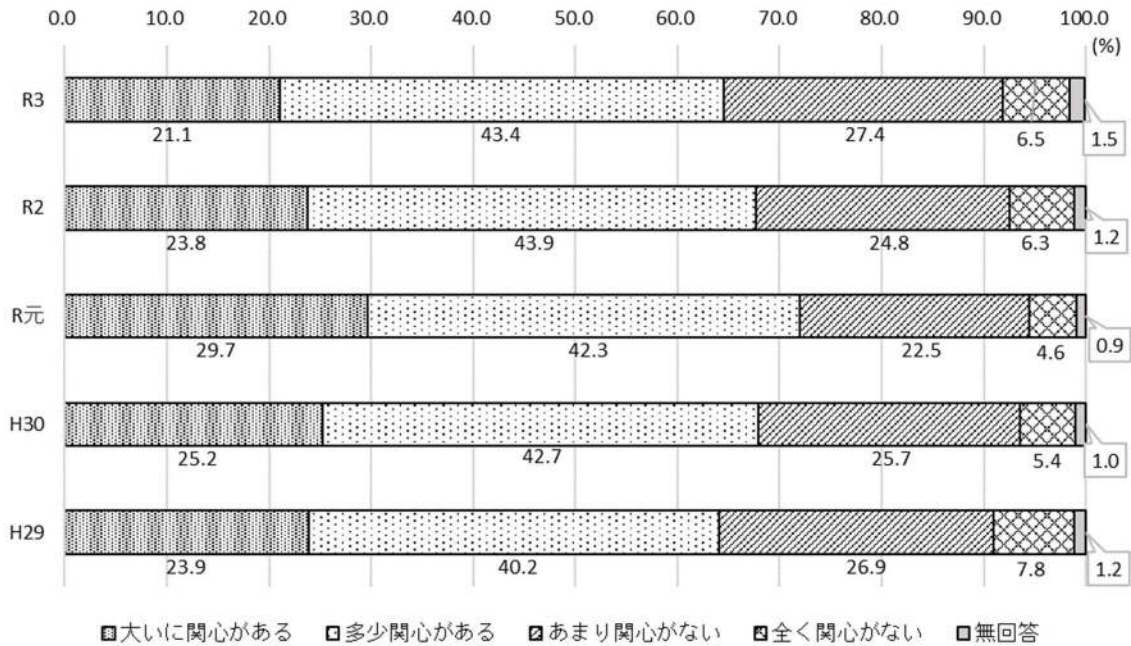
(1) 「竹島」について

問11. あなたは、竹島をめぐる問題に関心がありますか。(P.35)

『関心がある(計)』が64.5%

「大いに関心がある」(21.1%)と「多少関心がある」(43.4%)の合計

『関心がある(計)』は、昨年度(67.7%)から約3ポイント減少

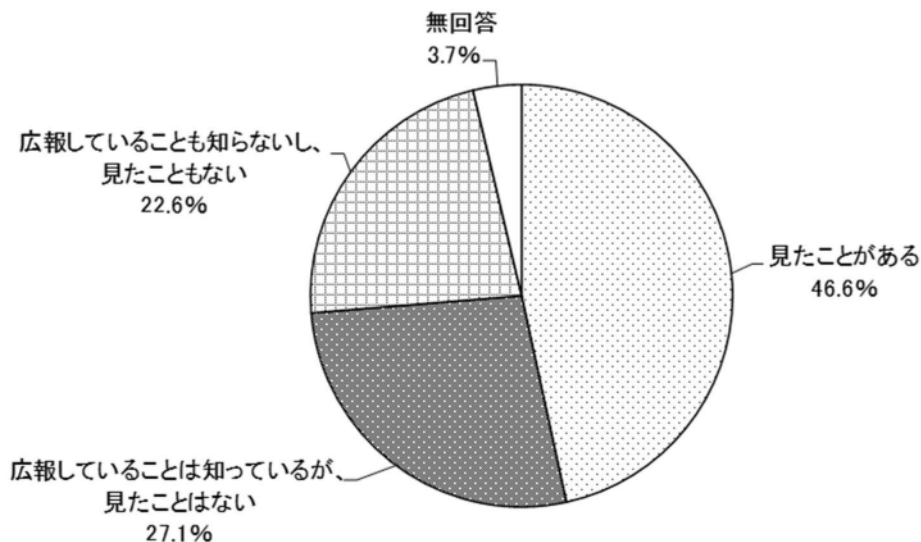


(2) 広聴広報活動について

問6. あなたは、県が行うイメージ発信広報を見たことがありますか。(P.23)

「見たことがある」が46.6%

「広報していることは知っているが、見たことはない」が27.1%と続く



令和3年度
件数 = 1,259

(問6で「見たことがある」と回答した方に)

問7. あなたは、どの広報を見たことがありますか。〔複数回答〕(P.25)

「Uターン・Iターンを呼びかける新聞広告」が62.5%

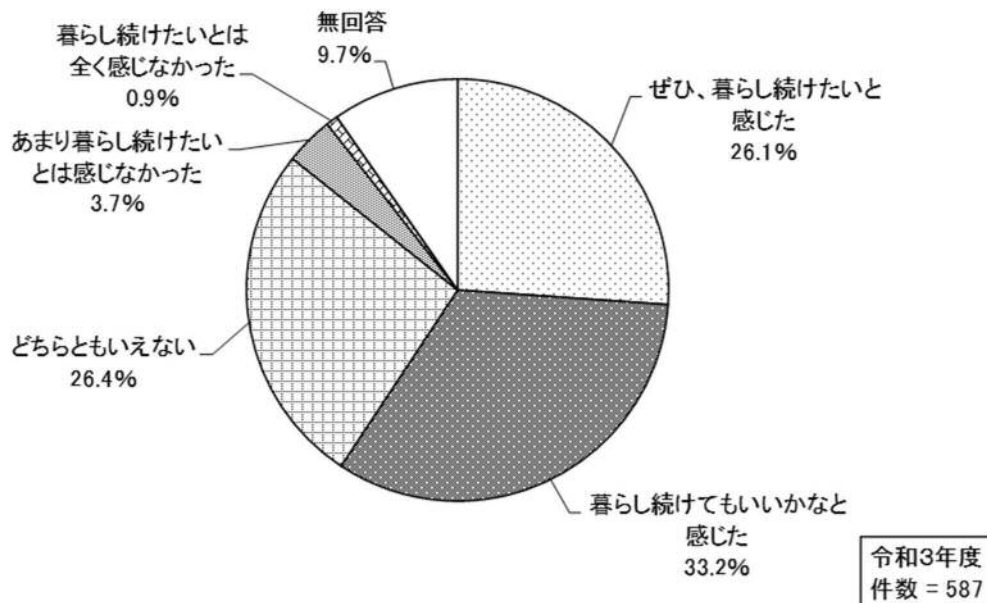
「しまね暮らしイメージCM(島根県民の歌を歌う高校生など)」(41.2%)、

「島根の暮らしをイメージさせる雑誌広告」(28.4%)と続く

問8. あなたは、イメージ発信広報を見て、将来、ご自身が島根で暮らし続けたいと思いましたか。(P.28)

『暮らし続けたいと感じた(計)』が59.3%

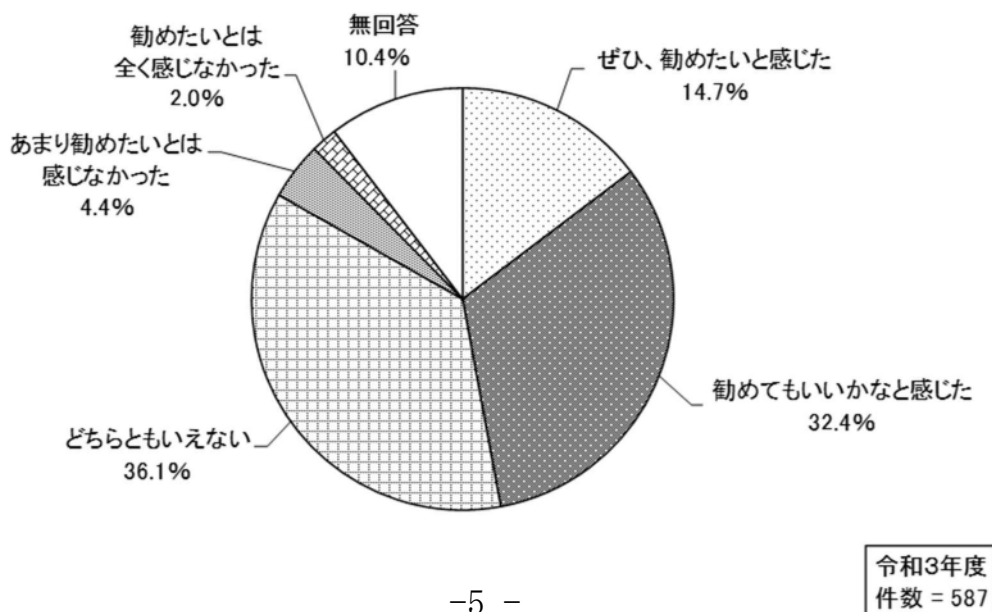
「ぜひ、暮らし続けたいと感じた」(26.1%)と「暮らし続けてもいいかなと感じた」(33.2%)の合計



問9. あなたは、イメージ発信広報を見て、将来、お子さんや友人などに島根で暮らすことを勧めようと思いましたか。(P.30)

『勧めたいと感じた(計)』が47.1%

「ぜひ、勧めたいと感じた」(14.7%)と「勧めてもいいかなと感じた」(32.4%)の合計

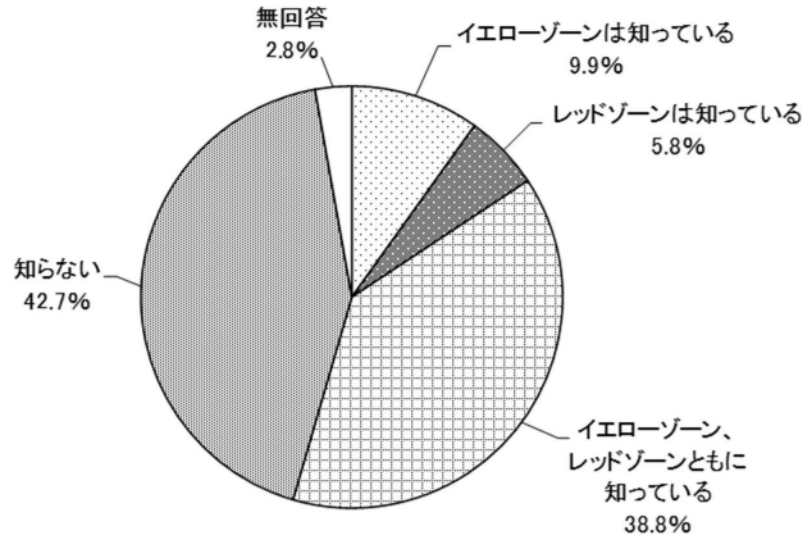


(3) 土砂災害対策について

問 14. あなたは、土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)や土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)を知っていますか。(P.43)

『知っている(計)』が54.5%

「イエローゾーンは知っている」(9.9%)と「レッドゾーンは知っている」(5.8%)と「イエローゾーン、レッドゾーンともに知っている」(38.8%)の合計



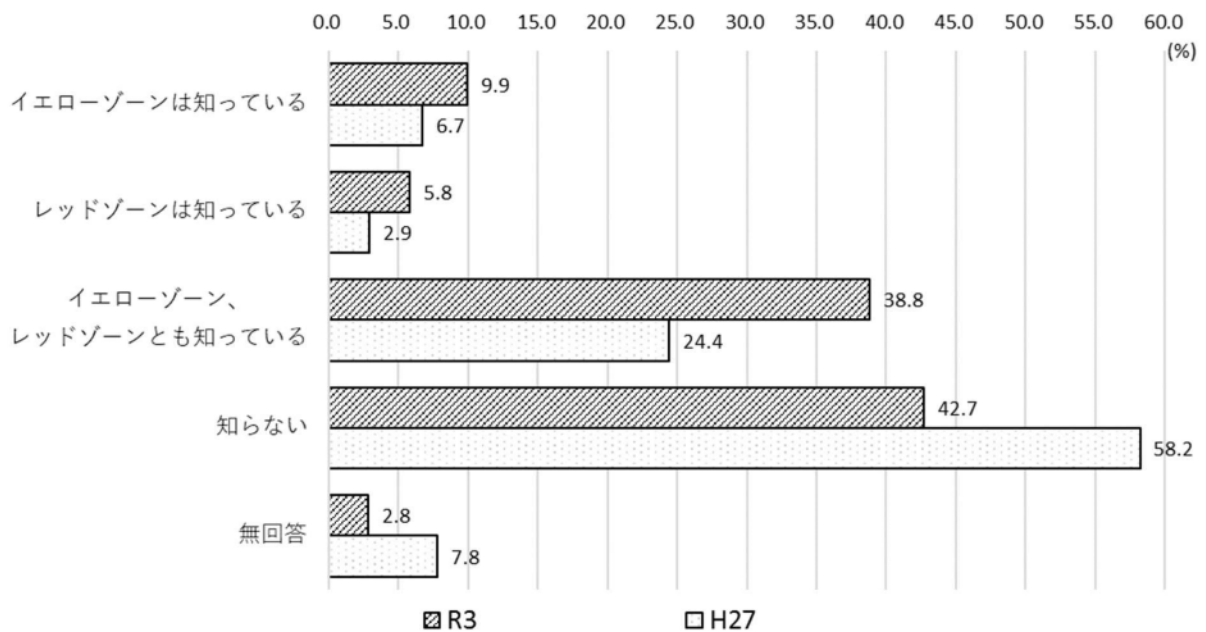
令和3年度
件数 = 1,259

<平成 27 年度と比較>

「知らない」が15.5ポイント減少

「イエローゾーン、レッドゾーンともに知っている」が14.4ポイント増加

「イエローゾーンは知っている」、「レッドゾーンは知っている」がそれぞれ約3ポイント増加

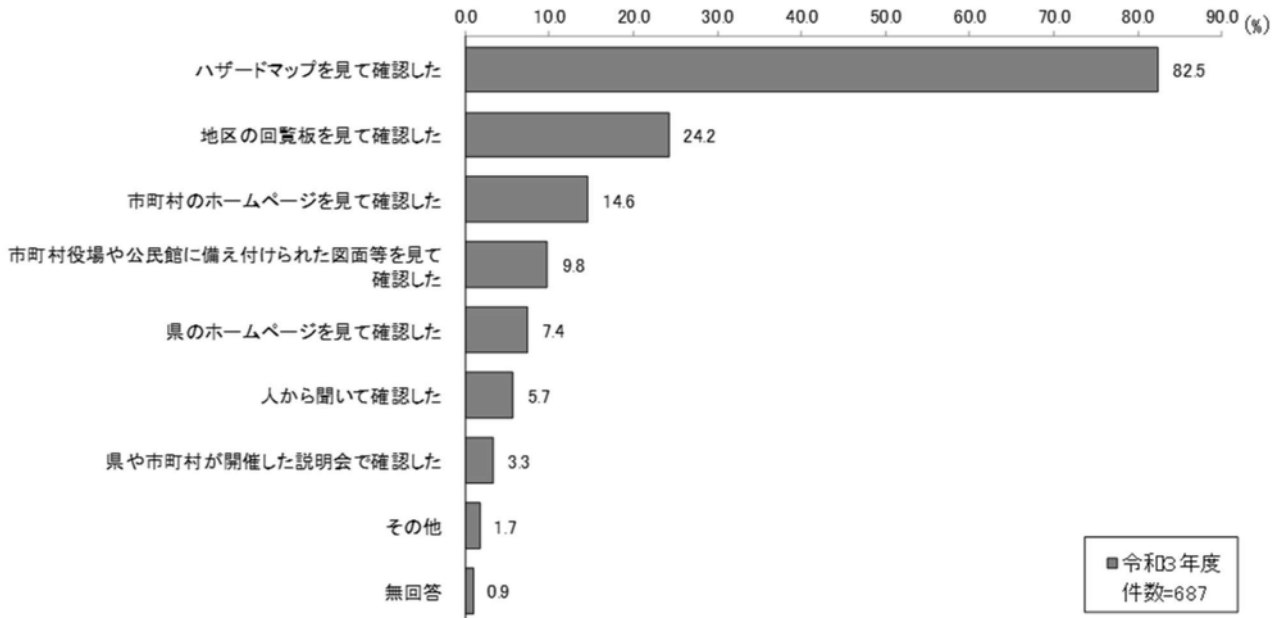


(問 14 で「知っている」と回答した方に)

問 15. あなたは、どのような方法でイエローゾーン・レッドゾーンを確認しましたか。〔複数回答〕(P.45)

「ハザードマップを見て確認した」が82.5%

「地区の回覧板を見て確認した」(24.2%)、「市町村のホームページを見て確認した」(14.6%)
と続く



(4) 子育て環境について

問 39. あなたは、島根県は子育てしやすい県だと思いますか。(P. 102)

『そう思う(計)』が78.0% 「そう思う」(20.2%)と「どちらかといえばそう思う」(57.8%)の合計
『そう思わない(計)』が18.7% 「そう思わない」(3.3%)と「あまりそう思わない」(15.4%)の合計
『そう思う(計)』は、昨年度(75.5%)から約3ポイント増加

